令和８年１１月号

鹿浜こども園だより

令 和 ８ 年 １ １ 月 ２ 日
足 立 区 立 鹿 浜 こ ど も 園
第一園舎　℡３８５５-４４４７
足 立 区 鹿 浜 ５ - ２ ５ - １ １
第二園舎　℡３８９７-８５１５
足立区鹿浜５-２４-４-１０１
園　長　　澤　田　　好

鹿浜こども園の教育目標

げんきなからだ
やさしいこころ
かんがえるちから

心豊かで　たくましい
「遊ぶの大好き・笑顔いっぱいの子ども」
を育てる

生命の安全教育の講演会を受けて

先日は、貴重な土曜日にご参加いただきありがとうございました。ご参加いただけなかった保護者の皆様にも、講演会の内容を共有させていただきます。

今回の講演会では、生命の安全教育は、「子どもたちが自分自身を大切にするとともに、相手のことも大切にできる心を育むための教育である」ということからお話をいただきました。子どもたちには、「自分の体は大切なもの。だからこそ、友達の体も大切にしなければならない」ことを、日々の生活や遊びの中で伝えていくことが大切です。自分が触られたくないときには「嫌だ」と言ってよいこと、そして、相手が「嫌だ」と言ったときには、その気持ちを尊重しなければならないことを、年齢や発達に応じて丁寧に伝えていく必要があります。

また、家庭においても、体の大切な部分について、恥ずかしがったり曖昧な表現でごまかしたりするのではなく、正しい名称で伝えることが大切です。生理など、体の成長に伴う変化についても、子どもの疑問に真摯に向き合い、年齢に応じて正しく伝えていくことが、子ども自身が自分の体を理解し、守る力につながります。

そして、何より心に留めておきたいのは、親であっても、保育者であっても、子どもの人権を尊重することが大前提であるということです。子どもを一人の人間として尊重し、その思いや意思を大切にする姿勢は、日々の何気ない関わりの中にこそ表れます。生命の安全教育は、園だけで完結するものではありません。家庭と園が共通の認識をもち、同じ方向性で子どもに関わっていくことが重要です。大人が正しい知識をもち、子どもの気持ちを受け止めながら、一貫した対応を積み重ねていくことが、子どもたちの安心と安全につながります。

今回の学びを一過性のものにせず、職員間で共有するとともに、保護者の皆様とも理解を深めながら、子どもたちが自分自身を大切にし、相手を尊重し、安心して自分らしく成長できる環境づくりに努めていきたいと思います。

園長　澤田　好

【行事予定】

１１月		
４日	水	安全指導
５日	木	お米の出前教室⑤ 内科検診（第一）13：00
６日	金	おとあそび研修
１２日	木	ハロー６ちゃん⑤10：00
１７日	火	身体測定 鹿浜未来小給食体験⑤
１８日	水	避難訓練
１９日	木	生活発表会総練習 親子絵本読み語りデー
２０日	金	園内研修 短時間保育児 13:00 降園
２６日	木	誕生日会
２８日	土	生活発表会③④⑤
３０日	月	生活発表会振替休日 （短時間保育児）

１２月		
８日	火	園内研修 短時間保育児 13:00 降園
９日	水	避難訓練 個人面談始～12/18
１５日	火	身体測定
１７日	木	安全指導 誕生日会 親子絵本読み語りデー
２２日	火	おたのしみの日
２５日	金	終業式④⑤ 短時間保育児 11:45 降園
２６日	土	冬季休業日始 （短時間保育児）
２９日 ～1/3	火 日	年末年始休業

ADACHI CITY　知ると分かる。すると変わる。SDGs MODEL ADACHI

＜ひよこ組＞

テラスにプラタナスの大きな葉っぱが落ちていることに気づいた子どもたち。「みて！」と嬉しそうに頭に乗せたり、お面のように顔に当てたりして楽しんでいました。握った葉っぱがポロポロと細かくなることに気づくと、両手いっぱいに集めて投げ、落ち葉のシャワーに大喜びでした。

公園では、落ち葉を踏んでカサカサと音を鳴らしたり、どんぐりを見つけ集めたり、秋の自然を満喫しています。

これからも、子どもたちの「みつけた」「おもしろい」という発見や喜びに寄り添いながら、自然に触れる楽しさを一緒に味わっていきたいと思います。





ねらい

・戸外で体を動かしたり、身近な自然物に触れたりして遊んでいきます。
・遊びの中で、保育者や友達と言葉や仕草でのやりとりを楽しみ、伝わる嬉しさを感じられるようにしていきます。

＜りす組＞

ごっこ遊びをたくさんして遊ぶ姿が増えてきました。患者さんに聴診器をあてて、「だいじょうぶですか？」と、お医者さんになりきったり、洗濯物を干して、お母さんやお父さんになりきったりして楽しんでいます。

表現活動では、「アイスつくりたい！」と何を作りたいのかを保育者に伝えて、自分の力で作ってみようとする姿が増えてきました。

生活や遊びの中で経験したことや、印象に残ったことを、イメージしながらごっこ遊びや制作で表現していけるようにしていきたいと思います。





ねらい

・秋ならではの自然に触れ興味がもてるように、どんぐり拾いや落ち葉拾いなどを楽しめるようにしていきます。
・自分の思いを、言葉や態度で伝えられるように、一人一人丁寧に思いを受け止めていきます。

＜うさぎ組＞

室内に楽器コーナーを作りました。タンバリンや鈴、カスタネットなどを使い、叩いたり振ったりしながら音が出る面白さを感じて遊んでいました。保育者の歌声や、好きな曲に合わせて楽器を鳴らす姿もあります。

トーンチャイムでは、保育者の演奏を聴いた後に、音の振動を感じる体験をしました。耳だけではない、トーンチャイムならではの音の響きを味わいました。

様々な楽器に触れて、友達や保育者と一緒に音を奏でて遊ぶ楽しさを感じていきます。





ねらい

・秋の自然物との出会いを大切に、遊びに取り入れて楽しめるようにしていきます。
・ごっこ遊びを通して、生活に必要な言葉のやり取りを楽しめるようにしていきます。

＜ぱんだ・こあら組＞

友達の姿を見て、新しいことに挑戦する姿があります。大縄跳びでは、初めは跳べる回数が数回だったのが、繰り返し挑戦する中で少しずつ回数が増え、「13回も跳べたよ！」と嬉しそうに伝えてくれました。友達と励まし合いながら挑戦し、できた喜びや達成感を味わい、自信に繋げている子どもたちです。

「こういうふうにしたい」「一緒に作ろう」と、自分のアイディアを友達に伝えたり、友達の考えを取り入れたりしながら、遊びを広げていく姿が増えてきました。

一人一人が思いや発想を伝え合い、友達と一緒に遊びを作る楽しさを感じられるようにしていきます。

「こんなに跳べたよ！」





「ホースの下に水ながしたい」
「おっけー！やってみよ」

ねらい
・秋の自然物を遊びに取り入れたり、体を動かしたりしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきます。
・友達の姿に刺激を受けながら、さまざまなことに挑戦し、自分なりに工夫する楽しさを感じられるようにしていきます。

＜ぞう・きりん組＞

友達と力を合わせたり、競い合ったりする姿が増えてきています。

ドッジボールでは、「こっちにパスして！」「今がチャンス！」と声を掛け合ったり、友達と作戦会議をしたりしながら、勝つために考えを出し合い、遊びを展開しています。また、負けて悔しがる友達に「もう一回やればいいじゃん！」と励ます姿も見られ、勝ち負けによる喜びや悔しさを共有し、互いに支え合う関係が育まれてきています。

一人一人の思いを受け止めながら友達と考えを伝え合い、集団で遊ぶ楽しさや、みんなで力を合わせる充実感を味わえるようにしていきます。



パスするよ！



足元ねらう作戦にしよう！

しゃがんだら、当たらない！

ねらい
・友達と伝え合いながら、力を合わせて遊ぶ楽しさを味わえるようにしていきます。
・友達の気持ちに共感したり、励まし合ったりしていきます。

＜かぜのじかん＞

この一か月集って遊ぶ姿が増えてきているため、『子ども同士、保育者との繋がりを深め、思いを伝え合う』ことを大切に、様々な遊びを楽しんできました。

ある日、綱引きを楽しむ子どもたちの姿から、絵本『おおきなかぶ』と繋げてごっこ遊びを始めました。いくら引っ張っても抜けずにいると、「どうやって抜く？」「みんな呼んでくる」「職員室行ってくる」と、意見が出され、室内で遊んでいた友達や保育者全員を呼び、大きなかぶは無事抜けました。

共通の目的に向かって子ども同士、保育者と一緒に話し合いながら、遊びを楽しんでいきます。

みんなを呼ぼう！

みんなで引っ張るぞ！



ねらい
・共通の目的に向かって話し合い、工夫や協力、分担などをしながら遊びを楽しんでいきます。
・遊びや生活のなかで、クラスの友達や４、５歳児で活動する楽しさを味わいます。